

「攻めの経営を支える業務システム構築に関する戦略策定」

(平成27年度実施事業)

【目的】

我が国の民間企業等では、日常的あるいは定型的業務を対象とする部分に関しては、知識ベースに重点を置き、開発・更新に柔軟に対応できる業務システムの導入が始まっています。しかしながら、企業内外の多岐にわたる膨大な情報を活用して企業経営の戦略的な展開にかかわるような部門において、判断する当事者が人工知能と対話しながら最適の案を練り上げるといった提案・支援する業務システムは例をみません。このため本テーマでは、対象業務として人事を取り上げ、新たな業務情報システムの有効性を示すとともに普及を図るための戦略を策定することとしました。

【事業の概要】

①自動化ツールの調査と分析

自動化ツールとしては、40種の開発ツールの調査・分析した結果、「GeneXus」が候補と考えられます。また、タレントマネジメントツールへの展開が試みられていますが、終身雇用型人事制度、人事担当者の負荷などの課題に加え、現状のデータベース（DB）は望む柔軟性がないなどにより浸透していません。

②自動化システム導入事例調査と分析

自動化ツールを用いた定型的・日常的な基幹業務システムへの適用が始まっており、そこで必要とする安定性・信頼性、また導入の狙いである開発期間、コスト低減等、従来の開発法に比べ優れています。

③イノベーション人材等選定の要件

委員会参加企業等のイノベーションとその人材事例（18件）などにより、共通する人材要件として、常識とは異なる現象・解決策に対する“気づき・閃き”と“洞察力”、突出した“集中力や粘り”などが抽出されました。また、イノベーションチームの創造性は構成するイノベーター個人の創造性の単なる総和ではなく、主として多様性に基づくチーム編成によりチームの創造性を創出することが必要であるとの結論を得ました。

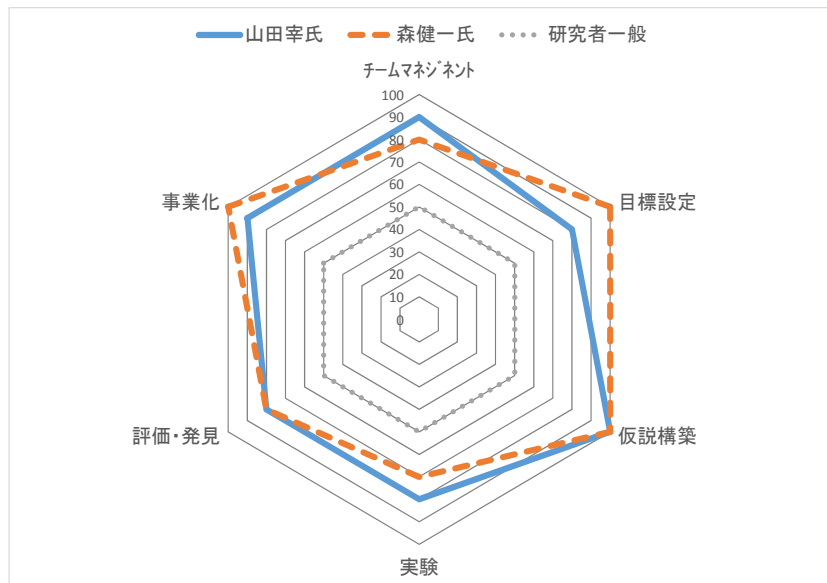
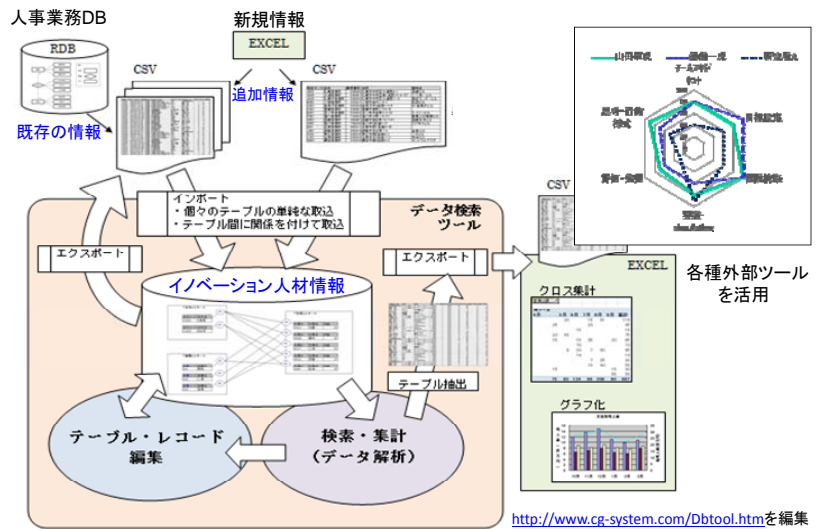
④戦略策定

イノベーション人材の獲得・育成・活用を支援する人材DBの基本構造は、「在来の人事管理システムのデータ」と③で検討した「イノベーション人材要件データ」、「イノベーター環境要因データ」、「チーム編成に関するデータ」から構成され、サステイナブル性を重視しかつ起こり得るものと想

kDB へのデータの登録と、検索／出力

定される試行錯誤にも対応できる柔軟性のある多次元処理が可能なn次元DBが適応可能との感触を得て、イノベーション人材に関する分析項目の一部のDB化を想定して、データ構造の枠組みをチャート化しました。

また、この人材DBを用いて、既にイノベーターとして認められている複数の人材の目標設定・事業化・マネジメントといった要件評価値をレーダーチャートで表示することにより、イノベーション人材の評価についての関係者の共通の理解と評価の基本モデルを構築し、これをもとにイノベーター候補の採用や育成等に活用できることも分かりました。



【今後の展開】

企業経営環境の変化に即応する“攻めの経営”を支援するためには、業務定義からアプリケーションを自動生成できる機能により利用者自らニーズに即したシステムを構築できる新たな開発手法である「GeneXus」が有効であることなどが分かりました。また、これまでは情報システムの支援の恩恵を享受できなかった人事業務のような常に対応・処理が変化する業務に対しては、例えば人材決定の際に必要な人事関連情報を効率的に抽出して利用することを可能とし、サステイナブルに進化し続けることができる人工知能型（対話型、自動生成型）のシステムを必要としているといった新たな視点も得られました。このため、次年度も本事業を継続することとしました。

【問合せ先】

- 調査開発全般：一般財団法人 機械システム振興協会 TEL:03-6848-5036
- 本調査開発の詳細：一般社団法人 研究産業・産業技術振興協会 TEL:03-3868-0826